

とやま健康企業宣言は、全国健康保険協会（協会けんぽ）富山支部が2016年度から始めた制度。17年度から同支部と県健康保険組合連合会（こけん）が協議会を引き継いだ。企業が健康経営に取り組むことを宣言した後、健康診断の実施や職場環境の整備などを行うと「銀（ステップ1）」、発展的な取り組みを続けると「金（ステップ2）」



従業員の健康維持を支援する「健康経営」への関心が県内企業の間で高まっている。健康経営を目指すことを掲げる「とやま健康企業宣言」の事業所数も年々増加しており、中小企業にも取り組みが広がっている。健康診断の受診や生活習慣の改善を促し、生産性や企業イメージの向上、人材確保につながるのが狙いだ。（相川有希美）

広がる「健康経営」

57



健康増進に向けて開かれたビレッジ・フィールドのヨガ体験会＝2022年11月、県営武道館

生産性上げ人材確保

に認定される。宣言自体は現時点の状況に関わらず行うことができる。今月16日時点で776社が宣言した。銀認定は358社、金認定は41社となっている。

ヨガの体験会

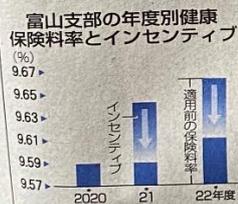
昨年12月に銀認定を受けた介護施設運営のビレッジ・フィールド（富山市住吉町）は、健康診断で再検査となった従業員に個別で声をかけをしたり、階段に消費カロリーを表示するシールを貼ったりしている。インストラクターを招いてヨガの体験会も行った。

禁煙手当

村野秀治社長は「当初は健康という個人的なものにとどまらず踏み込んでいか迷った」と振り返る。ただ離職率の高い介護業界では、健康経営に取り組むことで人材の確保・定着が期待できる」と「従業員に元気でいてもらうことは会社の安定につながる」と話す。

パッケージメーカーのサクラパックス（同市高木）は、21年3月に金認定を受けた。全社員を対象にメンタルヘルスの知識を学ぶ「フロンテ」を実施しているほか、たばこを吸わない社員には「禁煙手当」を毎月支給している。橋本淳社長は「かつてはお金を稼ぐことだけだった必要があるだろう」と述べた。

隔週土曜に掲載します。



健康経営の推進は、健康保険料の負担軽減にもつながる。協会けんぽは2018年度から、加入事業者の取り組みに応じた健康保険料率のインセンティブ（報酬金）制度を行っている。特定健診の実施率

健康保険料下げも

取り組みに応じ 富山は全国1位

特定健診指導の実施率▽特定健診指導対象者の減少▽受診勧告を受けた要治療者の医療機関受診率▽シネリック医薬品（後発薬）の使用割合の5項目で都道府県支部を順位付けし、上位15支部の健康保険料率を引き下げる仕組みだ。富山支部は20年度実績全国1位だった。22年度健康保険料率に引き下げが反映されており、加入者平均年間2千円程度安くなった。

令和5年2月18日（土）北日本新聞社 朝刊掲載

令和4年12月27日とやま健康企業宣言 step1 認定を受けたことにより、企業の健康経営の取り組みについて、北日本新聞社より取材を受けました。

認定を受けて終わりではなく、従業員の健康増進を継続的に取り組み、一人ひとりが健康意識を持てるよう様々な環境整備を行っていきます。

<https://furusatonokaze.com/> O P E N/8 : 15~17:00 CLOSE 日曜日 株式会社ビレッジ・フィールド

株式会社ビレッジ・フィールド(本社) 〒930-0031 富山市住吉町 2-6-19 TEL:076-422-0218 FAX:076-422-0219

https://www.instagram.com/villagefield_furu/